

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
1・2年通年	1・2	1	必修
担当教員			
建築学コース全教員			
添付ファイル			

講義概要	大学院の最終段階の演習として、実践的なテーマで、建築設計演習を行う。演習1では、簡易な意匠設計、演習2では構造設計、演習3では設備設計を学んできたため、最後の仕上げの演習となる。与えられた敷地条件を基に各自が建物用途を決め、エスキスから本図面作成、CG化、模型まで製作する。最終段階として具体的な敷地をベースに都市空間の中の中高層建築物の設計を行う。		
授業計画	1, 2	演習課題の提示 演習課題の内容を説明する。 社会的背景を鑑み、プロジェクトへの問題の立て方、解決方法など総合的視点で設計を行う。 AL-1, 2	
	3, 4	社会的背景の調査・分析-1、2 ・敷地の周辺環境および歴史など社会的背景を調査する。 ・都市計画に則り、敷地の法規制、インフラの調査、前面道路・隣地などの敷地情報を調査する。 ・地区計画など関連する情報を調査する。 ・総合的調査により分析を行う。 AL-1, 2, 4, 5, 6	
	5, 6	社会的背景の調査・分析-3、4 ・敷地の周辺環境および歴史など社会的背景を調査する。 ・都市計画に則り、敷地の法規制、インフラの調査、前面道路・隣地などの敷地情報を調査する。 ・地区計画など関連する情報を調査する。 ・総合的調査により分析を行う。 AL-1, 2, 4, 5, 6	
	7, 8	都市計画調査-1、2 地域社会の中での位置付けを調査・分析する。 AL-1, 2, 4, 5, 6	
	9, 10	都市計画調査-3、4 地域社会の中での位置付けを調査・分析する。 AL-1, 2, 4, 5, 6	
	11, 12	都市計画調査の発表-1、2 ・地域社会の中での位置付けを調査・分析したものを発表する。 AL-1, 2, 4, 5, 6	
	13, 14	基本計画の立案-1、2 ・社会的背景および都市計画の調査・分析より、建築物の用途および外部空間を含めた敷地全体の計画を立案する。 ・建築計画、構造計画、設備計画、防災計画、外構計画などを総合的に計画する。 AL-1, 2, 4, 5, 6	
	15, 16	基本計画の立案-3、4 ・社会的背景および都市計画の調査・分析より、建築物の用途および外部空間を含めた敷地全体の計画を立案する。 ・建築計画、構造計画、設備計画、防災計画、外構計画などを総合的に計画する。 AL-1, 2, 4, 5, 6	
	17, 18	基本計画の立案-5、6 ・社会的背景および都市計画の調査・分析より、建築物の用途および外部空間を含めた敷地全体の計画を立案する。 ・建築計画、構造計画、設備計画、防災計画、外構計画などを総合的に計画する。 AL-1, 2, 4, 5, 6	
	19, 20	基本計画の発表-1、2 ・社会的背景および都市計画の調査・分析より、建築物の用途および外部空間を含めた敷地全体の計画を発表する。 AL-1, 2, 4, 5, 6	
	21, 22	設計提案-1、2 ・基本計画を元に、より社会への提案となる計画を行う。 ・構法、材料、工事費用など総合的に計画する。 ・社会の中での役割なども含め総合的に計画する。 ・図面と3次元（模型、パースなど）を作成する。 AL-1, 2, 4, 5, 6	
	23, 24	設計提案-3、4 ・基本計画を元に、より社会への提案となる計画を行う。 ・構法、材料、工事費用など総合的に計画する。 ・社会の中での役割なども含め総合的に計画する。 ・図面と3次元（模型、パースなど）を作成する。 AL-1, 2, 4, 5, 6	
	25, 26	設計提案-5、6	

	・基本計画を元に、より社会への提案となる計画を行う。 ・構法、材料、工事費用など総合的に計画する。 ・社会の中での役割なども含め総合的に計画する。 ・図面と3次元（模型、パースなど）を作成する。 AL-1, 2, 4, 5, 6 27, 28 設計提案-7、8 ・基本計画を元に、より社会への提案となる計画を行う。 ・構法、材料、工事費用など総合的に計画する。 ・社会の中での役割なども含め総合的に計画する。 ・図面と3次元（模型、パースなど）を作成する。 AL-1, 2, 4, 5, 6 29, 30 最終発表-1, 2 ・基本計画を元に、より社会への提案となる計画を発表する。 ・図面と3次元（模型、パースなど）を用いてプレゼンテーションを行い、講評を受ける。 AL-1, 2, 4, 5, 6
授業形態	設計実習、および講義 アクティブラーニング AL-1:30回、AL-2:30回、AL-3:0回、AL-4:29回、AL-5:29回、AL-6:29回
達成目標	実践的なテーマに即した(意匠分野、環境分野、構造分野を鑑みた)設計等を行う。本演習では、専門科目履修およびインターンシップの実施により得られた知見を基に、自身の取り組むべき課題を見出していく能力を身につけることを主な目標とする。
評価方法・フィードバック	・演習課題の提出物によって評価を行う。 ・提出物は授業内で提示する。 ・評価結果をフィードバックする。 ・原則として、課題等のフィードバックは次回以降の授業内やWEB等を通じて行うが、具体的な方法・タイミングなどは指導教員より都度伝える
評価基準	総合点が100点満点で60点以上の者に単位を与える。 秀：100点～90点、優：89点～80点、良：79点～70点、可：69点～60点、不可：59点以下
教科書・参考書	演習課題の担当者により、資料が提示される。
履修条件	理工学演習1，2，3を履修のこと
履修上の注意	課題は、各担当教員により異なるため注意する。
準備学習と課題の内容	・講義内容や進め方、ゴールなどを理解しておくこと。 ・実践的演習を行うので、学部での講義内容を復習しておくこと。 ・演習課題を毎回予習1.5h程度、復讐1.5h程度行う。
ディプロマポリシーとの関連割合(必須)	知識・理解:30%、思考・判断:20%、関心・意欲:20%、態度:10%、技能・表現:20%

材料科学科目群